



第32号
2016.5 発行

古き良き時代の合唱連盟

理事長 児島 百代

昭和三十年四月、大学を卒業して北鎌倉女子学園の教諭になった私は二十二才——今から六十一年前の事だった。これが私の鎌倉人生の始まりである。そして二年後鎌倉の生活に憧れて北鎌倉の丘に家を見て両親と共に移住し、鎌倉人の一人に加えていただいた。

鎌倉合唱連盟を創設された故蓑田良子先生との関わりは五、六年後、北鎌倉のコースが動き始め同時に日曜日グロリア少年合唱団指導のお手伝いをするようになった頃であった。当時蓑田先生は京浜女子大(現鎌倉女子大)の合唱を全国レヴェルに育て上げる程の活躍をされていた。私より十一年上の先生が私の卒業した都立駒場高校の先輩と知って親しみを覚え、いつの間にか鎌倉合唱連盟創設の輪の中にいた。その数年前から鎌倉市教育委員会主催の市民合

唱祭に十五団体位が参加していたが、一九六五年に蓑田先生、長畑先生他十数名の有志の方々が合唱連盟を立ち上げられ、鎌倉市中央公民館に於て『結成記念演奏会』を開催された。今ここに五十年前のそのプログラムを開いてみると

——《理事長・蓑田良子》《副理事長・長畑妙(松ヶ岡コール指揮者)》《会計・松本紀子(現鎌倉女子大)》《学理事長、当時女子大合唱団のピアノ伴奏者》その他理事の中には《故吉井継太郎(グロリア少年合唱団創始者)》《磯見辰典(当時カトリック雪の下教会聖歌隊指揮者、上智大学名誉教授で現在も聖歌隊でテノールを歌っておられる)》などのお名前が掲載されていた。

そしてそれ以来鎌倉合唱連盟の定期演奏会は毎年一回夏に開催され、秋にはこれまでどおり市の主催する市民合唱祭に多数の団が積極的に参加して鎌倉市民文化祭を盛り上げている。

その間連盟の定期演奏会には毎回音楽界の著名な先生方を講師としてお招きし、参加した合唱団それぞれにご講評をいただいている。初期の頃には《奥田良三》《磯部徹》《大中恩》《前田幸一郎》《湯山昭》《山根一夫》《福永陽一郎》《三枝喜美子》などの諸先生が記録に残されている。それらの貴重なご批評がそれぞれの合唱団を育て、現在のようにレヴェルの高い合唱の世界を作り上げたのだと私は思っている。

ここまで計画的に創立し、育て上げて下さった故蓑田良子先生、長畑妙先生、サポートされた理事の方々に心から感謝申し上げたいと思う。さて、そのバトンを受け取った私達に託されたものは——十代、二十代の青少年層に合唱の喜びを伝え、学校、職場の中だけでなくこの鎌倉市民の輪の中に入ってきて美しい歌声を響かせて欲しい——それが連盟としての大きな課題であると思っている。



合唱連盟の今後のあり方

副理事長 佐藤 ゆり

鎌倉合唱連盟の活動としては鎌倉市文化協会に属し、これによって公共施設使用時の減免措置を受けている。それから合唱連盟定期演奏会と市民合唱祭をそれぞれ年一回開催している。これは大きな響きの良いホールで演奏することの少ない合唱団にとつて良い経験の場を作っていると思う。「良いホールが演奏家を育てる」と言われているように響きの悪いところで演奏しても進歩しないからである。

定期演奏会に講師をお招きする事を再開したのも演奏水準を上げるために良かったと思う。批評を受ける機会が少なければマンネリに陥りやすい。団が減免措置を受けているという事は、所属する一人一人が文化的向上のために市から援助を受けているという事である。演奏会の時、他の団の演奏を聴くことも勉強でもあり、同じ目的を持つて連盟に属する方々への敬意である。他の演奏が聴けないほど皆さん忙しいのだろうか。合唱の向上はハーモニーの追求である。ハーモニーはエゴが無くなつてこそ生まれ出るものである。

ネット上で繋がる希薄な人間関係に満足している人が多い現代、今まさに集まった人間同士でしか作れないハーモニーの追求は個人の好みを超えて社会的に意味のあるものである。団が小規模になり老齢化も危惧される昨今であるが、年二回の演奏会を企画運営するだけでなく、合唱力の向上を牽引する合唱連盟でありたい。

鎌倉市文化協会と合唱連盟

副理事長 丸山 孝之

鎌倉合唱連盟が属する上部団体が鎌倉市文化協会です。

鎌倉市文化協会は一九六四年の創立で、今年で五十二年目を迎えます。半世紀以上に亘って鎌倉市の文化活動の中心的役割を果たしてきました。

文化協会は鎌倉市経営企画部文化人権推進課に事務局を置き、鎌倉市における文化団体相互の連絡協調を図り、鎌倉市の文化の発展向上に資することを目的とした任意団体です。

現在は二十一の市民団体が加盟し、夫々が美術・音楽・演劇その他様々なジャンルで盛んな活動をしております。現在最も多くの会員を擁するのは鎌倉彫協議会で、合唱連盟はそれに次いで二番目に

多くの会員がおります。

文化協会の運営は、各団体から推薦された二名合計四十二名の理事で構成される春の総会、秋の理事会を議決機関として運営されており

役員として理事長、副理事長二名、広報三名、会計一名、書記一名、監事二名がおり、必要に応じて役員会を開催し、理事会への提案や決定事項の処理を行います。

主な事業計画としては、新春ギャラリー展の開催、鎌倉市民文化祭への参加、広報誌「かまくら文化だより」の発行、文化協会の目的に沿う各種催事後援、加盟各団体への助成金の交付などが有ります。

文化協会役員は前述以外にも鎌倉市芸術文化振興財団、鎌倉市社会教育委員会にも推薦委員として参加し、鎌倉市の文化全般の発展に貢献しております。

市民文化祭実行委員会には経営企画部文化人権推進課に協力して十名の文化協会理事が参画し市民参加型の楽しい文化祭を企画立案しております。鎌倉市民文化祭には文化協会加盟のほぼ全ての団体が参加しております。

本年は鎌倉市民文化祭が六十回の記念の年を迎えますので各種行

事も盛り上がりが期待されます。

一方合唱連盟は一九六五年の創立と同時に文化協会に加盟し、共に五十年を超えて活動を続けております。又、合唱連盟は活動の一助として毎年文化協会からの団体助成金を受けております。

鎌倉市民文化祭への参加行事としては、オーブニングイベントへの出演や、文化祭の一環として毎年秋に合唱連盟主催で開催される「鎌倉市民合唱祭」が有ります。市民合唱祭は昨年五十七回を迎えました。

合唱連盟創立の五年も前から一部の合唱団が市民文化祭に参加していたことになりました。

このように歴史と伝統のある合唱連盟を今後も益々発展させるべく全ての加盟団の皆様と共に努力を続けてまいりたいと思っております。

第五十一回合唱連盟

定期演奏会に参加して

鎌倉湖畔コーラス 本坂 美奈子

合唱連盟の定期演奏会も早五十回にもなることに、感慨深いものがあります。湖畔コーラスもその大半に参加してきたことになりました。ここ数年、人数が減ってこられた団体が散見され、私達も高齢化が進んできました。

指揮者の「あきらめたらお終よ」

の叱咤激励に暗譜にはげみ（老眼鏡はいや？）、舞台では若々しくありたいと衣装も色だけ統一して、後は各自の自由にし、そして最高の笑顔を忘れずに歌うようにしています。幸い、講師の評も会場からいたたくメッセージも若々しい歌声、大人の合唱等、好評をいただき、大いに励みになっていきます。年齢を重ねることも、歌への思いを深め、表現する事の喜びもかみしめられて、捨てたものではないと実感しています。

これからもあきらめずに歌い続けていきたいと思っておりますので、講師の先生方には是非、成長するためのアドバイスをお願いしたいと思います。それぞれの団体が切磋琢磨して成長していける合唱連盟であってほしいと思います。

第五十七回市民合唱祭に参加して

永遠の花 (A Flower Remembered)

混声合唱団 鎌倉コーラル 松尾 達彦

思い出のあの花は永遠に咲き続ける。当団は連盟定演には、ほぼ毎回参加していますが、市民合唱祭は時折しか出演していません。普段の練習成果を発表する定演と違って、市民合唱祭はなじみのあらゆるやさしい曲を楽しく聴いてもらう趣旨なので、私も宗教曲を主

なレパートリーにしていると、ラテン語や外国語曲ばかりで、参加をためらいがちです。

このたびはジョン・ラターが東日本大震災の復興支援のために作曲し、日本語詞をつけた曲を知り、分かりやすくやさしい曲だったので、市民合唱祭にふさわしく思い参加するために取り組みました。実は当団が日本語曲を舞台で歌ったのは初めてのことで、幸いに聴衆の反応も好意的で、ミニ講評もお褒めの言葉をいただきました。あらためて、母語である日本語での歌唱の難しさを実感しました。これからも市民合唱祭にふさわしい曲を探して参加したと思っております。

新規加盟団の紹介

はじめまして

Anemone Coronaria 松岡 幹枝

こんにちは。Anemone Coronaria (アネモネ コロナリア)です。

私たちは四年前にコーラス仲間有志一〇名で結成いたしました。浦畑博美先生のご指導の下、ときには笑い、ときには厳しく、ときにはおしやべりが止まらないような楽しい練習を、アカペラ曲を中心に週一回行っています。

これまでに定期演奏会を二回開催したほか、県や市の合唱祭への参加、病院や介護施設などで懐メロや唱歌を歌う慰問ボランティアもたびたび行っています。

また他の合唱団の方々とは、コンサートのお手伝いや客演の形で交流もしています。

少ない人数ではありますが、心をひとつにし。これからもより美しいハーモニーを目指してがんばっていきますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

演奏会を実施して

友を偲んで

アンサンブルコラージュ 高島 一

昨年の秋を目指していた演奏会も会場が取れず、前回から2年以上経過の2月21日開催第2回演奏会となりました。小野健児氏編曲のフォスター歌曲集の初演、心に残った名合唱曲3曲、そして市民合唱祭で大変好意的評価を頂いたメドレーTOKYO物語の三部構成の演奏となりました。この舞台を目指す中で思わぬ訃報がもたらされました。テナーの加藤賢一郎氏とバスの石井明氏のいづれも男声の主力メンバーである二人でした。我々の演奏会準備は、この悲

しみから立ち直ることから始まったのであります。また、ベテランの穴を埋めるのは容易ではありませんが、新しい入団者の努力もあって何とか開演にこぎ着けました。寒い時期の開催で、さらに低気圧の本州通過の予報もあり当日の天候が心配されましたが朝から晴れ渡り、又、たくさんのお客様に会場いただき楽しく歌う事が出来ました。終演に当たり「はるかな友に」の一節を歌い、友を偲びました。お客様はじめ皆様のご協力に感謝いたします。



演奏会を実施して

マジコマーニストナート 中村 淳子

二月二一日横浜市戸塚区役所多目的ホールに於て、第四回目の演



奏会を行った。単独での開催は実に十一年ぶり。

平成七年に結成、翌年に合唱連盟加盟という歴史を考えるとアピールの弱い合唱団となるのかもしれない。とはいえステージ経験はそれなりに積んでいるので、演奏会に向けた練習が始まった頃は、よく言えば冷静に、悪く言えばちんたらと練習に臨んでいた。

しかし佐藤ゆり先生の危機感は強かった。年明けから特練、居残り練、さらに合宿が行われ、その頃から皆の顔つきが変わりだした。先生お得意の「瞬間タメ出し」の嵐を受けても何とか頑張り続けた。

プログラムはア・カベラの宗教曲六曲、ヴィヴァルディのグロリアミサ（序唱先唱）の二部構成。実力派の管弦楽は圧巻だった。全力で歌い切り、最後は「ブラボー！」の掛け声をいただいて終演した。

あれほど絞られてきたのに、グロリアミサも終わりに近づくと、もう歌えないのかと悲しくなってきたから不思議だ。アンコールのモーツアルトのアヴェヴェルムコルプスでは声の震える者もいた。男声合唱団牧神、佐藤望氏、応援の方々がいなければ成功しなかった事も忘れないようにしたい。

二〇一六年度

事業計画について

二〇一六年度年次総会が一月二十六日に開催され、二〇一六年度の事業計画、会計予算が、賛成多数で可決されました。

尚、昨年十月十三日には臨時總會を開催致しました。臨時總會では昨年四月から実施された芸術館使用料減免の変更に伴い、合唱連盟の財務状況が急変し、今後の運営に支障を来す事態となった為、やむを得ず年会費及び演奏会参加費の値上げをお願いし、ご承認を

頂きました。

本号では二〇一六年度事業計画の一部をお知らせします。各団体の活動計画の参考になれば幸いです。

四月二三日（土）

神奈川男声合唱協会演奏会・鎌倉芸術館大ホール・合唱連盟の支援事業

五月十一日（水）

第五二回定期演奏会の代表者会・出演順の決定・機関誌「えっせんす」三二号発行

六月一四日（火）

第五二回定期演奏会の準備会・参加費納入他

七月十八日（月・祝）

第五二回定期演奏会・鎌倉芸術館大ホール。講師を依頼

九月中旬

第五八回市民合唱祭の代表者会・出演順の決定

十月中旬

第五八回市民合唱祭の準備会・参加費納入他

十一月三日（木・祝）

第五八回市民合唱祭・鎌倉芸術館大ホール

加盟各団の活動状況

*クール百音

平成二十八年六月七日

横浜みなとみらい小ホール

第十二回定期演奏会

*鎌倉湖畔コーラス

平成二十八年六月

県立音楽堂

県合唱祭

*鎌倉女声コール

平成二十八年六月十四日

ひまわりの郷

交流コンサート

*ジュニア合唱団なぎさ道

平成二十八年七月三十一日

鎌倉芸術館小ホール

定期演奏会十三回

*女声合唱団ミモザの会

平成二十八年十月九日

鎌倉芸術館大ホール

第九回定期演奏会

*男声合唱団エルダー泉

女声合唱団鎌倉湖畔コーラス

平成二十八年十一月二十七日

鎌倉芸術館小ホール

*クール・ドウセール

平成二十八年十二月

鎌倉生涯学習センターホール

Musik Konzert vol.18

*グロリア少年合唱団

平成二十八年十二月二十三日

カトリック雪ノ下教会

第二十八回定期演奏会

編集後記

今号では合唱連盟の創設時などのお話を児島理事長にお書きいただきました。五十二年前の鎌倉合唱連盟「結成記念演奏会」のプログラムをみると、「鎌倉市職コーラス部」や今は鎌倉から撤退してしまった企業のコラス部など職場コーラスが目立つ。また高校、大学のコーラス部の数も多い。実に幅広い層のコーラスを愛する仲間が集まっていたことが分かる。

さて現状はどうでしょう。

社会情勢同様、合唱連盟も各団の高齢化が急速に進んでいる。いつまでも健康で合唱を楽しめることは素晴らしい！「元気で長生き」は社会にとっても大きなプラス要因である。反面、学生を含む若い仲間が結成当時のように多くないことが課題だと言える。次代を担うジュニア合唱団、働く職場の仲間のコーラスなどが益々活性化して合唱連盟が広い年齢層で構成され、素晴らしい伝統が引き継がれていくことを願うばかりだ。

阿部 栄子

えっせんす 第三十二号

二〇一六年五月 発行

発行責任者

鎌倉合唱連盟理事長

印刷所 青木紙工印刷

児島 百代